



山イカ装束

妙義山はかつてたくさんのお山^{おぼ}がいたお山、というのは覚えてますか？(忘れちゃった人はvol.8も読み直そう！)とここであの山イカの着ている装束、なぜアレなのかご存じですか？実はあの装束、持っているものも含め全て意味があるのです!!

ゆいばいさ
と士カロシ
小口衣袋

めちやくちや
大切なもの

とまん
頭襟

すずかけ
金懸

みんな気になるポーンポーン。大切なものはそのポーンポーンが付いてる本体の方。本来ひらひらした形状のお装束を折りたたんで、お経がめい込んである修馬独自の装束です。ちなみにお経は正式には梵天というの呼ばれますことあるよ！梵天はうしろも合わせて六波羅密を表しているスペース不足で説明省略ググって下さいませー

コレも目立つので皆気になりますよか！すーと大切なものなのです。十二角形の黒いコレ、大日如来さんの宝冠を表します。コレをつけることで山イカは大日如来さんと一体になるのです。お山という神聖な場所に入らせていただくには自分も仏さんにならなきゃいけません。(そのために事前に精進潔斎もする)木の枝や岩からおでこを守ることもできます!

この山イカ装束、正式には「金懸」といいます。「金」とは私たちが誰もがもっている「仏性」を表します。この仏性にかけ衣袋の「金懸」といいます。ちなみに金懸の上衣は9枚の布、袴は8枚の布でできており、それぞれ金剛界、胎藏界を表し、これは金胎不二を表します。びや！ムズカシ！「気になる人は音聞べてみてね！」

ほう
法螺

頭襟につくまわして、こちらは大日如来さんでございませう。法螺の出す音はとくも清浄で、大日如来さんの説法に等しいといわれます。法螺の形は「万」という梵字に似ています。この「万」の字は大日如来さんを表す字なんです。万の字の体もっている法螺すぎえい!! 尊い!!! ということでございませう。

大日如来さん
は妙義山の
奥の院に
まつられてる!!

ひしき
引敷

山イカがおしりにぶら下げている毛皮を引敷といいますが、これは獅子乗という意味があります。これは読んで字の如く、獅子に乗っていることを表します。自然界の王である獅子に助けをもらって、煩惱も苦業も打ち砕くぞー!! ということでございませう。ゴツゴツ痛い岩にも、ぬれた地面にも平気で座れちゃう便利な子です🌸

こんどうづえ
金剛杖

ただの棒じゃありませんよー。見ると八角柱で、上部に七ヶ折込みが入って、これは塔婆(とうば)、すなわち山イカは自分自身のお山に入っているのです。修馬食では「山中世界」の中を異界、もっと言うととらえます。だから山イカは持ってお山に入ります。ちなみに長さはおおよそくらいあると使いやすいよ。下りる金剛杖、三本目の足やぞ!とよく言われます。めちやくちや大切。

います。ち墓を表し身の墓をもて。といて、死後の世界自らの墓標。自分の背丈で力を発揮

「はあ、これだけ書いただけでギョウギョウになっちゃった...。他にも「貝緒」とか「女王蓋」とか「金扇杖」とか、何かかんやいっいあるのですが、それはいずれも展示で作ります。(A4ポライチじゃあり〜)

春から秋にかけて、妙義信仰の調査と自らの修行を兼ねて全国のお山を歩いて歩いて歩きました。今年のお山シーズンもいよいよ冬あかりから... (サミシイ...)。先日、26日に表妙義を系徒走したら、霜相が立っていました。紅葉も終わっちゃったわ。キレイいな。

お山シーズンが系冬あかりとさみしくなるわ。またねお山、春になったらまた行くわ。

拜